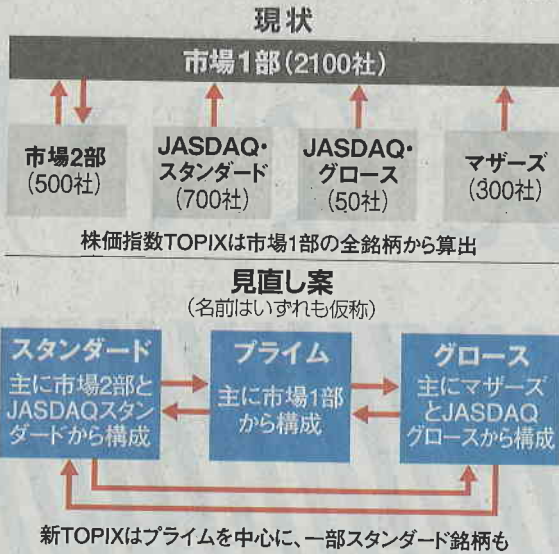


東証3市場に再編案

金融審TOPIX銘柄見直しも

金融庁の審議会は20日、東京証券取引所の市場区分の見直しについて、現在五

東証の市場区分見直しのイメージ
現状のカッコ内は上場企業の概数。金融庁の審議会資料から作成



つある市場を三つに再編する案を示した。あいまいだった各市場の特徴をはっきりとさせ、活発な投資を呼び込める市場とするねらい。年内に報告書としてまとめることをめざす。

同日の金融審議会で、「プライム」「スタンダード」「グロース」(ともに仮称)の3市場への再編案を示した。図参照。

プライムは時価総額の大企業が多く、売買取引が活発な銘柄中心の市場を想定。スタンダードと比べ、より高い企業統治の水準などを求める。両市場の関係は今の1部と2部のような上下関係ではなく、並

列の位置づけとする。審議会のこれまでの議論では、上場企業から「降格となった場合のイメージシ悪化ははかり知れない」との懸念が出ており、配慮した形だ。

20日の審議会では「(プライムの方が)高い基準を設けるのに、上下関係がないのは理解しがたい」と並列関係を疑問視する声も出た。審議会は、年内に報告書のとりまとめをめざす。

東証には、第1部▽第2部▽ジャスダック・スタンダード▽ジャスダック・グロース▽マゼースの5市場がある。新興企業向けのマゼースとジャスダックは違いがわかりにくく、投資家にとって利便性が低い問題があった。

審議会が市場再編とともに大きなテーマとするのは、株価動向を示す新指数の作

成。指数連動の投資信託が広がるなど、重要性が増しているためだ。今の東証株価指数(TOPIX)は1部の全銘柄が対象。売買の少ない銘柄も含まれ、指標としての代表性や機能性が不十分との指摘があった。

新指数の対象銘柄は、プライムを中心に3市場から横断的に採用される見通いだ。ただ、当面は株価下落などのトラブルを避けるため、経過措置としてTOPIXの存続を考えている。

日本証券業協会の鈴木茂晴会長は20日の会見で「市場にはTOPIXを前提とした商品があり、なくせば大変なことになる。TOPIXから外れ、株価が下がって投資家が損するかもしれない。投資家保護も頭に入れて議論してほしい」と述べた。(柴田秀並、吉田拓史)